

学童保育施設から始まる高齢者の居場所づくり

大田原市
一般社団法人えんがお 濱野将行さん

17班 コミュニティデザイン学科 内田若那 齋藤瑞 新山莉里加
建築都市デザイン学科 濱崎瀧太郎 荻澤祐理
社会基盤デザイン学科 永井大晴



背景

社会課題①

外出できない高齢者が孤立

社会課題②

将来に希望を持ってない
若者が自殺

1st

・高齢者が楽しく暮らせる地域をつくれれば問題の解決につながるのではないかと考え、ベンチの設置を検討

2nd

・しかし、現在設置してあるベンチの利用率は低いため、ベンチの設置以外に解決する方法を探したい

3rd

・えんがおが4月から学童を始めることと防犯上の観点から学童は地域から断絶されやすい傾向にあることを知る

高齢者の孤立解消と地域に開けた学童づくりを
同時に行うことはできないだろうか

成果・分析結果

アンケート結果の分析

○この社会実験のために外出した人、また来たいと思う人が多かった先行研究より、高齢者は老後の活動をしたい思いがあってもきっかけや場所がなくて参加できないと感じている人が50%いる(高齢者の社会参加に関する意識調査より)。
今回のようにきっかけがあれば外出する人がいることが分かった。今後、このような娯楽や交流する場があるときに、外出するハードルを下げることで考えられる。孤立解消につながる有意義な社会実験になった

○今回今まで知らなかった人と話すことが出来たか▶10人中6人○
孤立解消へとつながる新しい交流の輪を広げることができた。今回知り合った人同士でまたこの居場所へ訪れてくれることを期待したい



学生と高齢者の交流の様子

○地域の人が求めていること

話してくれる人がいると入りやすい、会話が出来る空間ほしいという意見があった。学童が出来れば常駐している人がおり、子どもも多数いるため、話し相手もいて多世代間交流が期待できる。滞在しやすい入りやすい場所づくりを学童が始まる前からさらに進めていく必要がある。

提案

①居場所イメージの改善

建物は明るい方が良く、入りやすい雰囲気にした方が良くという意見があったので、まずは私たちにできることとして伝言板を明るい雰囲気にした。当初の学童施設内のコンセプトであるレトロ感を残しつつも明るい色を使い、入りやすい雰囲気にする必要があることを提案

②高齢者に来て貰うために

映画鑑賞が非常に人気であり、異なる世代同士で終映後も感想を言い合っていた。多世代交流のために、定期的なイベント開催に映画鑑賞を取り入れることを提案する。また、学童が始まったら高齢者が学童運営に関わる(役割を与える)ことも効果的であると考えた。

③伝言板を効果的に利用してもらうために

- ▶まずはシャッターを開ける時間を長くすることを提案
- ▶地域食堂で家を回る時に感想を描きに来てもらう(見に来てもらう)
- ▶伝言板の半分上に毎日えんがおニュースを書くことを提案
- ▶伝言板を利用して屋台で売ってほしいものを利用者から聞く

目的及び方法

◎学童の入り口に居場所を作ることで高齢者の孤立解消を目指すとともに、孤立しやすい学童を地域交流の拠点とすることで、双方の課題解決を図る

1. 学童となる予定の空き店舗の店先を活用し、居場所となる空間を作る(設置するもの)

テーブル、ベンチ、屋台、机付き本棚(小説・漫画・数独など)、玩具箱(ランプ・オセロ・折り紙など)

2. 居場所を周知するための社会実験

- ・映画鑑賞 ・私たちの活動紹介
- ・店先の活用方法についてのワークショップ、アンケート

3. 伝言板の設置

- ・地元の中学生に協力してもらい、地域の中で交流が成されているか設置後の経過を観察する



空き店舗の店先の当初の様子



空き店舗の店先の活用予定図



社会実験時の店先の様子

ワークショップや参加者とお話からの分析

○店先を居心地の良い場所にするためにほしいもの
食べ物→食べ物の話題がでると歳関係なく盛り上がる
植物、HUNTER×HUNTER(漫画)、なんじゃもんじゃ(カードゲーム)

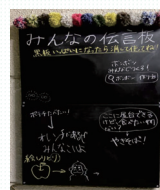
○今回のコンテンツ(映画やワークショップ)が全世代から好評
そして私たちの活動紹介をすることによって居場所として認識してもらえるようになった

○やはり暖かい方がいい

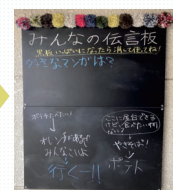
今の季節は大田原は寒いので店先でのイベントは厳しかった
▶冬は居場所としてと言うよりは伝言板や居やすい雰囲気を見てふらっと立ち寄れる場所として機能しそう

伝言板における地域交流調査結果の分析

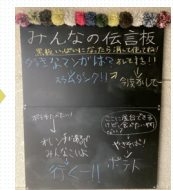
○元からあった書き込みに返答する形で地域交流がなされていた。
→みんなの好きなものを聞いている内容が多かった。
→伝言板での書き込みが新たな交流やイベントのきっかけを作る起爆剤になり得る



一日目



二日目



三日目

地域パートナーからのフィードバック

- ・明るい雰囲気の場所にするべきという提案を参考にして、今後学童保育施設の改修を行っていく。この提案は、法人の方針に影響を与えてくれた。
- ・提案を受けて、改修後はシャッターを学童終了後も開けたままにすることを検討する。
- ・伝言板の提案がとてもよかったので、今後えんがおが所有する他の施設でも伝言板のシステムを活用したい。



社会実験当日の店内の様子(左)と店先の様子(右)